

報道機関 各位

熊本大学

歴博民俗研究映像上映会「明日に向かって曳けー石川県輪島市皆月山王祭2015」と「モノ語る人々ー津波被災地・気仙沼から」

このたび、熊本大学文学部・大学院社会文化科学研究科主催、国立歴史民俗博物館共催による国立歴史民俗学博物館研究部民俗研究系が作成した研究映像の上映会を2回実施します。それぞれの上映タイトルとスケジュールは以下のとおりです。

つきましては、広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材方よろしくお願いいたします。

- ①第一回：歴博研究映像「明日に向かって曳けー石川県輪島市皆月山王祭2015」アンコール上映会  
期日：2018年10月3日（水）  
時間：10時10分開場 10時20分開演  
12時～ゲストとのランチディスカッション（弁当持参のこと）  
場所：熊本大学全学教育棟E205教室（定員250名）  
ゲスト：川村清志（国立歴史民俗博物館研究部准教授 映像作成者）
- ②第二回：歴博研究映像「モノ語る人びとー津波被災地・気仙沼から」  
期日：2018年10月31日（水）  
時間：10時10分開場 10時20分開演  
12時～ゲストとのランチディスカッション（弁当持参のこと）  
場所：熊本大学全学教育棟E205教室（定員250名）  
ゲスト：葉山茂（国立歴史民俗博物館研究部特任助教 映像作成者）

- 【対象】 どなたでも参加できます（事前申込不要）  
【参加費】 無料  
【詳細】 次頁を参照ください。

## 【お問い合わせ先】

熊本大学大学院人文科学研究部  
担当：教授 山下裕作  
電話：096-342-2462  
e-mail：h563f@kumamoto-u.ac.jp

## 【詳細】

・第一回目（図1）の内容は、過疎高齢化に悩む地域社会が、如何にしてその土地固有の文化伝統を維持・継承しようとしているのか、石川県輪島市皆月の山王祭を守る青年会の活動に焦点をあて、緻密に記録したドキュメンタリーである。過疎高齢化に伴う文化伝承の衰退は、国内の地域社会における一般的な課題になりつつあるが、研究者自身が、地域に残る若者、祭のために都会から戻ってきた若者、そして女性たちや高齢者たちとともに、土地の祭を維持しようと奮闘しながら記録された映像には、故郷に関わる人々、それぞれが持つ切なくも強い願いを垣間見ることが出来る。過疎高齢化という地域社会の課題の本質を感得できる映像資料である。



図1 「明日に向かって曳け！」概要

・第二回目の内容は東日本大震災、津波被災地域における生活文化復興の取り組みについて記録した映像ドキュメンタリーである。津波で流出した気仙沼の尾形家住宅（有形民俗文化財 写真1・2）の再生の試みをとりあげる。民俗文化財は地域住民の生活行動の蓄積物であり、地域の人々の代々の人生が、重層的に積み重ねられ、現代の人々に継承されている。被災により激しく傷んだその生活文化財の再生を、住民と共に、住民の未来の生活に資するように、悩みながら実践してきた若い研究者の目を通して、災害下における生活文化の有為な再生とは如何なるものであるか、一つの方向性を示す内容となっている。不幸にも災害が続く昨今、注目すべきドキュメンタリーである。



写真1 被災前の尾形家住宅



写真2 被災後の尾形家住宅